

以森伝心

理事長 柏原康夫 筆

第 13 号

2011年3月

特集：インタビュー

「日本文化と森」

特定非営利活動法人

和の学校 理事長

伊住弘美氏

森林に関わる人々 第3回

森林で働く人々③

森と木のナルホド講座 第9回

「国際森林年とは？」

チーム以森伝心ニュース

森林ボランティアの集い開催報告



京都の森を守り育てる運動に参加しませんか

特定非営利活動法人 和の学校 理事長

いずみひろみ
伊住弘美氏

山遊び森遊びを通じて 日本文化と心を次世代に伝える

美しい四季や自然、それを彩る歳時記…、豊かな文化や芸能…、暮らしに息づく知恵…、思いやりや感謝の気持ち…、おもてなしの心…。

そうした「失われつつある日本の良さ」を取り戻し、潤いのある心豊かな世の中にするを旨とする特定非営利活動法人 和の学校。だれでも気軽に参加できる活動の概要とそこに託された想いについて、理事長の伊住弘美さんにお話をうかがいました。

私 たち日本人にとって耳慣れた言葉でありながら、改めて問われると説明しづらい不思議な感覚——「和」。曖昧模糊とした、それだけに壮大なテーマを掲げる学校とは、いったいどんな場なのだろうか。

「確かに、とても大きなテーマですが、昔の日本の家庭には“学ぶ”という四角張った意味ではなく、日々の生活のなかで自然に身につけてきたことがたくさんありましたよね。たとえば季節の行事にしても、新年を迎えるにあたってしめ縄づくりや障子の張り替え、月見の時にお団子を作って野山からススキをとってきて供えたりと、おじ

いさんやおばあさんと一緒に暮らす中で自然と身に付いてきました。その延長にお茶やお花もあり、それを踏まえてさらに深く“学ぶ”という段階を迎えるんです」

こうした観点から、和の学校では、「あそび塾」と「こころ塾」を大きな柱として活動を展開している。

「昔の日本家庭では当たり前に行なわれていた味噌作りやわらじ作り、あるいは田植えから収穫までの一連の作業など、生活のなかで身につけるべき、いわばベースの部分子どもたちに体験してもらおうと、子どもはすぐ素直に受け入れてくれます。そうすると、文化や作法を受け入れる下地が自然にできていきます」

伊住さんのお話のとおり、和の学校の会報誌『学校通信』の「あそび塾」活動報告のページを見ると、山菜摘み、わらじ作り、畑仕事、川遊び、雪遊び、味噌作りと、昔ながらの生活体験に取り組む子どもたちの姿がうつられている。どの表情も生き生きとして真剣なのが印象的だ。そして、「遊び」と称しているながらも、たくさんの「学び」が詰め込まれていることにも驚かされる。例えば、私たちにもなじみ深い「花見」にも深い意味がある。桜は、「サの神」という稲作を守護する神が宿る木とされていたことから、稲作の無事を祈る意味を込めて花見をする。暮らしや文化の中にあつた人々の想いや意味を知ったうえで体験や行事に参加することで、子どもたちのなかに「和のベース」が形成されていくであろうことは、想像に難くない。



「あそび塾」でのしめ縄づくり
日本の正月準備の風習を親子で体験



特定非営利活動法人
和の学校 理事長
いずみひろみ
伊住弘美

岐阜県出身、同志社大学文学部卒業。株式会社ミリエム代表取締役会長。茶道裏千家第16代千宗室家元実弟伊住政和氏夫人。

平成12年に伊住政和氏が自身の取組みとして和の学校事業を立ち上げ。平成15年2月2日に急逝。その遺志を受け継ぎ、平成16年1月13日にNPO法人として設立。

昔の日本の家庭のなかにあった生活文化を体験しながら学ぶのが「あそび塾」であるなら、暮らしを通して長い歳月をかけて先人たちが築き上げてきた伝統文化の意味を学ぶのが「こころ塾」。茶道・華道・礼法の中にある「おもてなしの心」「感謝の心」をテーマにした《おもてなしを学ぶ》。節供の意味を知り、それを飾る先人たちの心を知る《飾る心を学ぶ》。旧暦や月との関係、田畑との関係、暮らしとの関係を知る《暦を知る》。暮らしと密接につながる神様、仏様を知る《神仏を知る》。工芸、文学、風景などにある日本の美意識を知る《日本の美を知る》。旬の食材、伝統的な食べ物を食卓から見直す《食を知る》。活動報告を見ている、決して堅苦しさや敷居の高さは感じられず、むしろ強い興味を覚える。

「この国にある、美しい四季や自然、それを彩る歳時記、豊かな文化や芸能、衣食住にかかわる伝統文化など、ともしれば忙しい現代人が忘れがちなことが、今の時代の“大切なこと”であると気づかせてくれるのではないのでしょうか」と語る伊住さん。和の学校は地球温暖化などの環境問題や子ども達を取り巻く厳しい状況の中で、「失われつつ



菌植えしたなめこの観察
自生のなめこと見比べて違いを知る

ある日本の良さ」を見つめ直そうという提唱でもあるという。そうした暮らしがベースにあると。「先人たちの残した文化には、それら多くの意味が含まれています。そして、子どもたち



無農薬栽培なので後々草取りをしやすいうように、人の手で均一の間隔に苗を植える

に昔の日本の暮らしを体験してもらうことは、伝統文化を取り入れる“入り口”に立ってもらうことです。子どもたちが、昔のように自然のなかに遊んで、自然をうまく自分の身体で感じる事ができれば、日本の伝統文化を自然体で受け入れることができる。自然に吸収できます。人に対する思いやり、神仏や自然に対する感謝……先人たちが守り伝えてきた日本文化と心を、次の世代に伝えていくことは、私たち大人の大切な役割だと思うのです」

子どもたちを導く活動「あそび塾」のサブタイトルが「山であそぼ」であるのも、日本文化の原点が山や森などにあったからだと締めくくる伊住さん。「自然とともにある暮らし」を体験する時間は、私たち大人にも必要なものかもしれない。

イベント紹介（4～8月）

あそび塾 2011

- 「山であそぼ」 4月 4月17日 大枝の竹藪 竹の子掘りと竹で炊飯体験
- 「山であそぼ」 7月 7月初旬 桂坂野鳥遊園 竹で食器を作る
- 「山であそぼ」 8月 8月初旬 京北上黒田 川あそび

桂坂野鳥遊園「特別体験講座」(京都市社会福祉協議会との共催)

- 道草たべよ 5月中旬 道草山菜の採取と天ぷら体験
- わらじ作り 6月中旬 わらじ作り
- 夏休みの工作1 8月中旬 ソーラーメロディーハウスづくり
- 夏休みの工作2 8月中旬 万華鏡づくり
- 竹細工 9月中旬 竹の水鉄砲づくり

お知らせ

この4月より桂坂野鳥遊園（京都市西京区）の管理運営を受託し、活動のフィールドを広げてまいります。

園内には手作り工作などにうってつけの「ものづくり体験館」があり、里山的な広葉樹の山林が一面に広がるなど、あそび塾の活動の拠点として様々な活動を計画していく予定です。

問合せ・連絡先

和の学校 Tel：050-7103-2001 Fax：075-431-7570 メール：info@wanogakkou.com

もり 森林に関する人々

かつて、森林が元気だった頃、人々はさまざまなかたちで森林と関わっていました。食事の煮炊きに使う薪を集めたり山菜を採ったり、あるいは猟をしたりと、どの家庭も森林との関わりのなかで暮らしていました。そして現在。「森林の大切さを見直そう」「美しく豊かな森林を取り戻そう」という気運が高まってきましたが、人々はどのように森林と関わっているのでしょうか。当コーナーでは、森林に関わる人々について紹介します。

第3回 森林で働く人々③

今号では、林業家、シイタケや炭生産者など、多様な人々が集まり組織された団体を紹介します。

京都府林業研究グループ連絡協議会

京都府林業研究グループ連絡協議会(以下、連絡協議会)は、京都府各地で自主的に活動している『林業研究グループ』により構成され、現在11支部と4部会を配し、会員数約600名を有する団体です。

1、「林業研究」グループとは

森林・林業の振興、普及啓発及び地域活性化を行うことを目的に、各地域において有志の方々が集い結成された団体です。その活動内容、構成員は多岐にわたり、活動範囲も北は丹後、南は宇治田原まで府内一円となっています。

各地域において、森林整備、木材利用、竹炭の製造、シイタケ栽培、山菜の生産など、様々なジャンルにおいて、研究・実践活動を行っています。

例えば、南丹市八木町を中心に活動している「船井林業友の会」では、毎年11月に会員の所有林を調査し、よりよい山づくりの方策を検討する「お山拝見」の取り組みや、木材市場関係者との懇談会を開催し、市場価値の高い良質材を生産していくための情報収集を行っています。

2、連絡協議会の取り組み

連絡協議会は、林業研究グループ同士の連携を深め、各グループの活動を促進するとともに、一体となって上記の目的を達成するため、昭和42年の発足以来、先進地視察研修会や一般の人々に林業への理解を深めていただくための一日林業体験、農林水産フェスティバルでの普及啓発活動など、様々な活動を行っています。



昨年8月の先進地視察の様子(岡山県真庭市)

特に、年に1回開催している先進地視察研修会は、毎回総勢100名を超える大人数の参加があり、全国各地の先進的事例を視察し、日々の活動に活かしています。ち

なみに本年度は、岡山県真庭市のバイオスタウンの取り組み、広島県の安田林業を視察し、町を挙げての木材利用の取り組みや地域との連携を重視し、将来の見える山づくりを学びました。

それらの活動に加え、連絡協議会では担い手の育成にも重点をおいています。その一つが北桑田高校の生徒を対象とした「林業体験学習会」です。ハーベスタ(木を伐倒し、枝を払い、一定の長さで切断できる機械)やフォワーダ(伐倒した木をつかみ、荷台に載せて運搬する機械)などの高性能林業機械に実際に触れ、林業という仕事の醍醐味を体験してもらうもので、学校側にも大変好評です。この時使用する機械は、会員の所属する林業事業者からの借用ですが、いろいろな立場の人間が集まる連絡協議会だからこそ実現する取り組みなのです。



昨年11月の林業体験学習会の様子

林業研究グループ・連絡協議会からのメッセージ

今まで以上に森林・林業の大切さをPRし、活動を広げるため、今後はモデルフォレスト運動へ参加していきたいと考えています。各林業研究グループには、多様な人材が数多くいますので、その技術を活かし、モデルフォレスト運動に取り組む企業・府民の皆様の活動の一助になればと考えています。今後、企業や一般の方々と一緒になって、京都の森林を良くするため活動していきたいと考えていますので、一緒に活動したいと思ったださる企業・府民の皆様がおられましたら、ぜひ本協議会にお声をかけてください!

山が好きな人は林業を仕事に考えてほしい

林業経営者にしろ、山林労働者にしろ、とにかく「人」を育てていくことが急務だと思います。そのためにも、若い人がもっと森林や林業へ目を向けてほしいと思います。そこで、地元の府立北桑田高等学校の生徒たちに、座学の授業だけではなく、実際に林業の現場に来てもらい、生徒全員に実際に高性能林業機械に触ってもらう試みをしています。

林業における後継者不足は深刻な問題ですが、若い人に森の手入れをしてもらったり機械をオペレートしてもらったりすると、林業の仕事に興味を示してくれます。その関心を持ち続けて社会に旅立ってほしいと思います。

自然の中で仕事ができることはとても気持ちいいし、安心感もあり、私自身、森林には愛着があります。山に興味のある若い人も増えているようなので、そうした人たちが林業に就いてもらえるよう、業界を活性化していかなければならないと感じています。



柿迫正紀(かきさこまさき)

京都府林業研究グループ連絡協議会会長。南丹市美山町で自己山林の経営、素材生産業を営む。(株)北桑木材センター代表取締役。京都府指導林家。

林業を続けていける環境が必要

一昨年から国の政策の緊急雇用対策で財団法人京都市森林文化協会から森林整備隊の事業を請け負い、花脊の森で森林整備隊の副隊長をしています。森林整備隊には、20代～60代の隊員が20数名在籍しています。

初めは全員まったくの素人でしたが、チェーンソーの使い方や下草刈り、枝打ちから始まり、林業に関わる多くの技術を習得した結果、今では間伐をメインにしながら、木を切り倒せるようになってきています。今後、補助金の制度が継続されるかどうかは未定ですが、隊員の人たちの大半は今後も林業でやっていきたいと考えてくれているようです。

「後継者の育成」は重要な課題ですが、こういった人たちが林業を仕事として続けていけるような環境や経済状況など、林業を取り巻く環境整備も不可欠だと、今この仕事をしながら痛感しています。



高畑正康(たかはたまさやす)

京都府林業研究グループ連絡協議会副会長。京都市で北山杉の生産を行う傍ら、後輩の育成にあたる。京都府指導林家。

農山村地域を健全な地域に戻したい

青年部には40代が中心となって現在15名在籍しています。何ができるかまだまだ模索中ですが、主に、林業と製材と建築の分野が手を組み、林業の現場と建築の現場を直接つなげる目的で設立された団体である『京都府林・材・建青年会議所』を通じて活動をしています。京都府農林水産フェスティバルでは、木材の実用性のPRや林産物の販売などを行っています。林業の世界はなかなか外部との交流がなく、消費の現場からの提案があれば受け入れて積極的に進めたいと思っています。

私の住んでいる南丹市日吉町は、林業と農業を兼業している人も多く、昔は一年中仕事がありました。農村として、仕事も環境もとても健全な地域でした。今は仕事がなく、それに伴い、農地や森林のバランスが崩れてきているので、もう一度健全な地域にしたいと思っています。



芦田竜一(あしだりゅういち)

京都府林業研究グループ連絡協議会副会長兼青年部長。南丹市日吉町で素材生産業を営む。高校の時から10年間は京都市内で暮らし、日吉町にUターン。家業の林業を引き継ぐ。京都府指導林家。

女性の林業への参画を目指して

女性部は現在28名在籍しています。林業は昔から男性の職業というイメージが強いですが、実際は家内工業なので奥さんもしっかり男の人と同じ感覚で林業に携わっていました。でも市場には入れなかったのが、女性ももっと積極的に参画する必要があると考えています。

まずは林業の勉強会を立ち上げ、1年間継続しました。それを継続したいという声が多く、地域で林業研究会を立ち上げました。その後は、山へ見学に行ったり、下草刈りや枝打ちをしたり、植樹をしたり、自分たちの森を持ったり、椎茸や舞茸、レイシの栽培をして朝市や道の駅で売ったり、市内からの林間学習の受け入れをしています。私自身は林業に関心を持ちながら、地域の活性に貢献していくことを考えています。

頭の片隅では、今後の林業の木材の需要をどのようにすれば高めていくことができるかを常に考えています。現在は楽しみながら続けられる活動を広げることには力を入れています。



一瀬裕子(いちせひろこ)

京都府林業研究グループ連絡協議会女性部代表。京都市で活動している樹々の会代表。(株)銘木いちせ(材木・磨丸太)の商いのかたわら、建物すべてを北山杉磨丸太で建てたペンションを経営している。

森と木の ナルホド講座

監修：京都モデルフォレスト協会

2011年は国連の定める国際森林年です。

「国際森林年」を機に、
豊かな森を守り育てていくこと、
またそのためには一人ひとりが
日本の森林の現状を理解し、
できることから行動を起こすことが
大切です。

第9回：国際森林年とは？

日本の掲げるテーマ「森を歩く」

1992年、国連環境開発会議「地球サミット(UNCED)」において、「森林の保全と持続可能な経営という森林保全の重要性について認識を広める必要性」が指摘されました。それを2011・国際森林年受け、2006年の国連総会決議で定められたのが「国際森林年」です。



世界の森林の状況を見ると、1990年から2010年の20年間で日本の国土面積の4倍にもものぼる森林が消失しています(註)。それと同時に、生物多様性の減少、砂漠化の進行、地球温暖化等、地球規模での環境問題も深刻化し、国際的に森林の重要性を再認識することが必要になってきているのです。

人々の森林への関わり方や地域が内包している問題は、国や地域によって様々です。森林は水源のかん養、国土の保全、地球温暖化防止や生物多様性の保全などの機能を果たしており、こうした森林の多面的な機能を守るためには、国民一人ひとりの理解・協力が不可欠なのです。日本は国土の70%近くが森林に覆われ、古来、森林を持続的に使う林業が存在し、自然との共生関係を維持してきましたが、近年は林業不振から手入れの行き届かなくなった森林が増加しているのが実状です。

この状況を認識したうえで、この課題を克服するため、林業に関わる者だけでなく国民全体と森林のきずなを取り戻すため、国は「森を歩く」というテーマを設定。森林に対する国民の理解の入口として、誰もが身近なところから「森林」に接し、参加できる具体的な行動を提案するものです。国民が森を訪れることにより、林業を含む地域産業活性化への波及をも意図しています。

「森を歩く」というメインテーマと同時に、下記の2つのサブテーマも設定。暮らしの中に積極的に木を使うことが進むよう期待しています。

●未来に向かって日本の森を活かそう

未来に向かって豊かな森を引き継ぎ、森に関わる人を育み、暮らしの中に木を取り入れましょう。

●森林・林業再生元年

農林水産省では、国際森林年である今年を「森林・林業再生元年」とし、現在約24%の木材自給率を10年後には50%を目指し、林業から流通業、製造業までを組み合わせた国産材利用のシステムを作ろうとしています。

註：2010年国連食糧農業機関(FAO)の統計

モデルフォレスト運動

森林の多面的な機能が十分に発揮できる健全な 森林づくりを進めるために

森林づくり活動への参加

森林づくり活動に取り組むボランティア団体は府内各地で年々増加しています。社会貢献活動の一環として森林の手入れをしたり、森林づくりに必要な資金提供を行う企業が増えています。

森林づくり活動への支援

毎年「緑の募金」にたくさんの寄付が寄せられ、森林ボランティア活動や緑の少年団活動等に活用されています。

府内の森林で生産された地域材の利用

身近な森林で生産された木材を使うことで、森林資源の循環が生まれ、森林の整備・保全が進むこととなります。京都府では、ウッドマイレージCO2認証制度や緑の交付金で、環境にやさしい京都の木の利用を進めています。

チーム以森伝心 ニュース

「チーム以森伝心」メンバーが、モデルフォレスト協会の活動取材し、レポートします！

森林ボランティアの集い開催報告

3月5日、前日の雪模様から一転、よい天気恵まれた「府民の森ひよし」で「森林ボランティアの集い」が開催されました。城陽市から京丹後市の府内各地より、大人20名、子ども30名が集まりました。今回のイベントは、京都モデルフォレスト協会が主催し、森林ボランティアをはじめ森づくり活動に関心のある人たちの交流を図り、活動する人と人をつなげ、森づくり活動を盛り上げようというものです。チーム以森伝心メンバーも企画から当日の運営まで携わりました。



午前中は「府民の森ひよし」内に保存されているかやぶき屋根の古民家で、現地のお母さんたちに手伝っていただき、竈（かまど）に火を入れ、ご飯を炊きました。

ご飯が炊けるまでの間、子どもたちは木工教室に。伐り出したばかりの木を、思い思いの長さや大きさにノコギリで伐り、

かわいい鹿や小鳥などを作りました。普段あまり使ったことがないノコギリやキリ等の道具を使い、様々な工夫をしながら木工に取り組む子どもたちは、生き生きと目を輝かせ、すごく楽しそうでした。



一方、大人たちはダッチオープン料理を体験。ダッチオープンとは分厚い金属性の蓋つき鍋で、蓋の上に炭火を載せて、上下から同時に加熱することができる鍋です。昨年大好評だったことから、今年は鶏と豚のそれぞれ2鍋ずつ作りました。1時間ほど経つ



といい香りが漂いできあがり。柔らかい鳥や豚の肉と肉汁がしみ込んだ野菜の味は格別。竈で炊いたご飯は子どもたちも手伝っておにぎりに。大変おいしく、参加者一同大満足の昼食でした。



昼食後は、古民家で緑のカーテン活動の報告会と囲炉裏を囲んでの車座トーク。報告会のあと、子どもたちは午前中に続いて木工教室、ガイド片手に野外散策と思い思いに過ごしました。大人たちは、ぐるりと囲炉裏を囲みながら森林や林業について語り合いました。参加者のほとんどは「山が荒れている」という認識を共有しており、「会社をリタイアして、森林整備のボランティアをしたいのだが、具体的にどうすればいいのかわからない」や、「間伐作業をしたいのだが、フィールドを見つけることができない」という意見が多く寄せられました。そして、モデルフォレスト協会に対して、森林ボランティアが活動できるフィールド等に関する情報について、より積極的に発信してほしいとの要請がありました。

参加した子どもたちの「楽しかった」「また参加したい」の声に、スタッフ一同癒され、またこのような機会を作りたいと思いつつ帰路につきました。

(宮本博司)



緑のカーテン活動報告

地球の温暖化防止に役立つ緑のカーテンの育成を通じて、緑や森や木に関心を持ってもらうことを目的に一昨年取り組んでいます。去年5月には、ここ「府民の森ひよし」で育て方講習会も行いました。

峰山・長岡緑の少年団からは9名の子どもたちが参加し、公民館や各自の家での緑のカーテンについて順番にわかりやすく発表しました。「一昨年に比べて昨年の育ち具合はあまり良くなかった。お天気のせいかな?」「苗から育てたものと種から育てたものの二通りにチャレンジ。実ったゴーヤで毎朝ゴーヤジュースを飲んだ」「ゴーヤの雄花、雌花の数を観察し、成長を記録しました」など、自分たちで育て、作ったからこそできる充実した報告に感動しました。



活動報告

【株】虎屋京都工場と森林利用保全協定を締結

1月27日、株式会社虎屋京都工場と八木町南北広瀬生産森林組合が地元と協働して森づくり活動



を実施するため協定を締結しました。ヒノキ林の間伐や間伐材の利用、広葉樹林の整備、歩道の整備や自然観察、遺跡観察等の森林・歴史学習を展開します。

また2月27日、初めての活動が、快晴の空の下実施され、(株)虎屋従業員と地元の皆さんが丹波くりの植樹を行い、柴作りやクイズラリーを楽しみました。共に汗



を流し、森林整備活動への意気込みを再確認しました。

『京都大作戦の森づくり』植樹

2月20日、宇治市天ヶ瀬森林公園にある『京都大作戦の森』でイロハモミジの苗木を植栽しました。好天に恵まれ、森林ボランティア「フォレスターうじ」、京都府立大「森なかま」はじめ、一般の方など50人以上に参加いただくことができました。この植栽は、2008年の野外コンサートでいただいた緑の募金で植栽したことをきっかけに、その後毎年行っているものです。昨夏の「京都大作戦2010」でも、多くの方から募金をいただき、今回の植樹を行うことができました。



陸上自衛隊(宇治)と森林利用保全協定を締結

陸上自衛隊宇治駐屯地親睦組織の宇治修親会と宇治曹友会が、宇治市西笠取の宇治市総合野外活動センター(アクトパル宇治)周辺の森林での森づくり活動を行うことになり、森林所有者の宇治市や、関係機関との間に森林利用保全協定を締結。広葉樹林やアカマツ林の整備、散策路の整備、管理等が行われます。



第1回の森林利用保全活動は3月4日。環境に対する森林の果たす役割と京都モデルフォレスト運動についての学習後、現地で作業。今後の森林整備の推進が期待されています。



春の募金キャンペーン実施中

府民の皆様にご協力いただいた緑の募金を活用して、地域緑化、学校緑化や次代を担う青少年へみどりの大切さを普及する取り組みを実施しています。



キャンペーン期間：3月1日～5月31日

発行：公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

入会案内資料をご希望の方は、ご連絡ください。

〒602-8054 京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町 104-2 府庁西別館内
TEL & FAX 075-414-1270 E-mail kyomori@kyoto-modelforest.jp
URL <http://www.kyoto-modelforest.jp>
2011年3月発行
企画・編集：自然堂(じねんどう)株式会社



この印刷物は、有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。また、大豆油インキを包含した植物油インキと適切に管理された森林の木材を利用した FSC 認証用紙を使用しています。